

令和2年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	クラレテクノ株式会社	代表者	代表取締役社長 松崎 一朗	法人・事業所の特徴	当事業所の理念は『いつまでもその人が主役のお手伝い』です。この理念をもとに、利用者それぞれの生活に対する思いや願いに応じ、安心した環境の中で尊厳ある暮らしが継続し続けるために、何が出来るかを常に考え取り組んでいます。介護方針として『尊厳を守る介護』『個人の生活習慣の尊重』『食事、排泄、入浴介護の充実』を掲げ、利用者一人一人に寄り添い、時間をかけて当たり前の生活を丁寧に支援していきます。
事業所名	デイホーム ちゅーりっぷ苑 さくら	管理者	新野 直紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	人	2人	1人	2人	4人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	9つのテーマ毎の「次回までの具体的な改善計画」を小集団活動や委員会、系の活動に落とし込み、職員間で共有し、達成に繋げる。	職員一人一人の半期個別目標シートを振り返りに活用し、自己評価にもつながった。	改善計画が達成可能でなお具体的な計画であると良い。	・職員が各々の目標シートや業務、ケアを振り返る意識を常に持ち続けられるよう職員会議にて確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	「いつでも足を運べる」「いつでも相談できる事業所」として認識していただくため、職員の接遇マナー向上に努める。	足を運んでいただける環境は整えたが、コロナ禍という事で、思うような対応ができなかった。	コロナ禍を理由にせず、前向きに事業所内の環境を整えていた。	・SNSやホームページを積極的に活用し、事業所PR行う。 ・利用者さんの生活や安全に集中できる環境を整備する。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域行事の参加を個からでも企画し、町内会とも連携し地域とかかわる機会を増やす。 ・虹色カフェさくらを毎日開催し、地域の拠り所となるように努める。(14:30～17:00)	足を運んでいただける環境は整えたが、コロナ禍という事で、思うような対応ができなかった。	コロナ禍で地域の方々も足を運べないし、ボランティアの方々も遠慮している。	虹色カフェさくらをコロナ禍においても運営や内容をSNS活用し発信する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	利用者の方個人から地域とのつながりを持てるアクションプランを立案し、実践する。	実際には、職員が送迎時や訪問時に突発的な相談や気になる方は居なく(目につかなかったのかも)取り組みとしては無かった。	・コロナ禍ではあったが、飲食を伴う外食は困難だったが、テイクアウトやドライブなど違う形で楽しさを提供していた。	個別避難計画を作成する中で、本人と地域に出向く機会を設ける。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の内容である議事録を利用者・ご家族にもお知らせする(郵送等)。	運営会議録を利用者やご家族には周知できたが、広報誌や苑だよりには掲載できなかった。	・会議の有意義に活用している。 ・HPにも運営推進会議を活かした取り組みの掲載を望む。	運営推進会議を学びの場として、情報交換会や勉強会を取り入れる。
F. 事業所の防災・災害対策	防災委員会を中心に、計画を遂行するとともに、防災、減災意識をより高めるために、日勤帯に入る際、夜勤に入る際に「火災発生時の対応」(簡易版)を確認する。	コロナ禍において、外部との接触を極力控える意味で、制限をかけて規模を縮小しての防災避難訓練となった。	・水害の避難訓練も積極的に行われていた。 ・苑全体的に防災に対する意識が高く見習いたいと思う。	・自然災害も含め、利用者個別避難計画を作成する。 ・水害に対する避難訓練を行い、職員としての動きを確認する。